

えがお 笑顔



ねんど 2024年度 学校だより
あやがわちょうりつしょうわしょうがっこう 綾川町立昭和小学校 第3号
さっか しほ 作花 志保 7月19日発行

「己の欲せざる所は 人に施すことなかれ～自分にされていやなことは 人にもしない～」

このことわざは、『銭天堂17巻』の「断捨離だんご」というお話から関連することわざとして、お昼のお話タイムで紹介した言葉です。そして、7月2日の全校朝会では、このことわざに関連して「自分も周りも大切にすることについて子どもたちに話をしました。どの子どもたちも一生懸命に聴いてくれて、自分自身の幸せのために「自分にされていやなことは、人にもしない」という言葉が浸透している感じがして、とても嬉しく思いました。下記に、子どもたちに話したことを記します。



今日は、みなさんに先週の金曜日のお話タイムで伝えたことわざ「己の欲せざる所は、人に施すことなかれ」ということわざについて考えてもらいたいと思います。このことわざは、昔の言葉で表されていますが、今風に言うと「自分にされていやなことは人にもしない」ということです。

学校にはたくさんのルールや決まりがありますが、ある大阪の小学校ではたった一つこの「自分にされていやなことは、人にもしない」ということがきまりになっている学校があります。それぐらい、みんなが仲よく幸せに生きるためには大切な考え方だということなのでしょう。みなさんは、どう思いますか。

最近、みなさんの様子をみていて、ぜひ、この言葉の意味を考えて欲しいと思っています。

例えば、悪口。「あいつ、ばかだよな」「うざい」「きもい」「きえろ」「死ね」などの言葉を口にしたたり、書いたりして、人のことを悪く言っています。悪口は、言葉の暴力とも言われています。言われた相手は、もちろん傷つきますが、実は、言った本人の脳も傷つけています。どういうことかということ、目の前にとんでもなくひどいことをした人がいて、「お前なんか死じまえ」と相手に向って言ったとしても、自分の脳は、相手に言っていると認識せずに、言った自分自身に向って「死んでしまえ」と言われていると認識してしまいます。つまり、周りの人の心も傷つけているけれど、悪口を言った本人の脳にはその何倍ものダメージを与えているという仕組みを持っているのです。

以前もお話をしましたね。自分のことが好きで、自分を大切に思っている人は、周りの人のことも大切にします。自分に言われて心地いい言葉を、周りの人にも言っています。6年生から夢ノートのワークショップが始まりましたね。自分のことを好きになる第一歩は、自分の好きなものを考えることから始まります。そして、その好きなことは、「みんなちがってみんないい」んです。自分を人と比べて、変な劣等感や優越感をもつ必要は全くありません。周りの友達が、自分の気に入らないことをしているからといって、いらいらしたり、腹を立てたりすることも必要ありません。だって、「みんなちがってみんないい」のですから。

どうか、自分自身も周りの人も大切にして、「自分も周りも大切にすることがいっぱい幸せな学校」に昭和小学校がなって欲しいと願っています。そして昭和小学校をそんな学校にするのは、みなさん一人一人です。そんな学校になるように、先生方も力をあわせてがんばっています。自分のことがきらいになって、人に悪口を言ったり、いじわるをしたくなる心になったら、担任の先生でも、支援員の先生でも、養護教諭の先生でも、スクールカウンセラーの先生でも、スクールソーシャルワーカーの先生でも、教頭先生でも、私でもかまいませんから相談してください。

昨年度から言っていますが、「相談するのも一つの能力」です。みなさんの心が、いつもハッピーで、友達に悪口を言ったり、いじわるをしたたりして、自分も周りも傷つけることのないよう、一緒に方法を考えますからね。

「己の欲せざる所は、人に施すことなかれ」—今日は、このことについてお話ししました。私の大好きなみなさんが、誰も傷つけあわないように学校生活を送って欲しいという、私の気持ちがみなさんの心に届くと嬉しいです。一生懸命に聴いてくれてありがとうございました。これで、お話を終わります。

昭和小学校では、人権・同和教育が全ての教育活動の基盤であると考えています。目指す子ども像を『『みんなが違ってみんないい』多様性を認め合い自分も周りも大切にするとしたのは、人権・同和教育の目標とも繋がるからです。昭和小学校で学校生活を送る、すべての子どもたちや大人が、自己肯定感をもち、多様性を認め合い、自分にされていやなことは人にもしないという気持ちでいたら、いじめや差別は起こらないと思うのです。また、人権・同和教育は、互いに幸せに生きること考える教育だとも考えています。そして、互いに幸せに生きる態度や能力は、①他者と協力する態度 ②進んで参加する態度 ③批判的に考える力 ④多面的・総合的に考える力 ⑤コミュニケーションを行う力 ⑥未来像を予測して計画を立てる力 ⑦つながりを尊重する態度 だと考え、全教育課程を通じて教科横断的にカリキュラムを組んで実践していこうと、今年度より「持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける児童の育成」を研究主題として研究に取り組んでいます。



9月の授業参観は、20日(金)の2時間目に1・3・5年生、3時間目に2・4・6年生が、人権・同和教育に関する授業を公開する予定です。どうぞ、子どもたちの姿をご覧くださいと思います。

8月3日(土)は、昭和校区の夏祭りです

公民館運営協議会の方々が中心となって進めている校区夏祭り。コロナ禍で三年間中止となっていました。昨年度から盆踊りも花火も復活しました。いつも子どもたちのためにご尽力いただいている地域の方々が、昭和小学校に通うすべての子どもたちが楽しめるようにと、今年は、子どもたち一人一人に抽選番号付きのうちわと、バザーやキッチンカーで使える金券を配ってくれました。

児童会の子どもたちも地域の方々の依頼を受け、みんなが楽しめる夏祭りになるようにと話し合い、3・4年生が運動会で披露した「布林バンバンボン」をみんなで踊ろうと、今日の終業式の際に練習する場を企画してくれました。

子ども会の役員の方々もお店を出してくれて、子どもたちの楽しめる夏祭りを考えてくれています。どうぞ、みなさんで誘い合って夏祭りを盛り上げていただけたらと思います。

長期休業中前の終業式での私の話は、「五感を使って過ごす」ということで一貫しています。成長期の子どもたちにとって、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚をふんだんに使って様々な体験をすることは、その後の人生の土台になると同時に、豊かな人生を送ることに繋がると考えています。夏祭り等を通じて、五感全部を使って思い出に残る夏休みを過ごしていただけたらと思います。

